



貸猫の手、 貸しましたしうか？

あいのしま
小倉北区 藍島

小倉北区浅野の北方約12kmの響灘に浮かぶ藍島。緑に包まれたこの島は漁業が中心で、猫が沢山住んでいる島として有名です。江戸時代には小倉藩の遠見番所が設けられており、今でも旗柱台が残っています。

暑中お見舞い申し上げます

暑い日が続きますが、人間の皆さまはいかがお過ごしですか。

僕は猫です。とくに名前はありません。のどかな300人ほどの島でのんびりと暮らしています。夏になると海水浴に来る子供たちからお菓子をもらう楽しみもあります。ここ最近、僕らの写真をこぞって撮りに来る人間も増えてきました。そういえば、まわりを見渡してみると、確かに僕らの家族や親戚だらけです。きっと人間と同じくらいの猫が平穩に暮らしているでしょう。

遠い昔から、僕らは漁師の人から魚をもらっています。そのお礼に、僕らは網をかじるいたずら鼠を捕まえて人間と仲良く共存してきました。ところが最近、漁師の人が咬いているのを小耳に挟みました。「この先、漁をやめないといけないかもな…」と暗い面持ちに溜息まじりです。僕はこれから先

も島でとれた新鮮で安全な魚が食べたいのです。輸入された外国の魚なんてあまり食べたくありません。ましてや、添加物だらけのキャットフードは御免です。

僕は生まれも育ちも藍島。潮の香りのする青い海が大好きです。広い雄大な海には境界なんてどこにもありません。もしどこかで汚染された水が流れ込んでしまえば、回りにまわって玄界灘までできてしまいますね。人間も僕らも死活問題です。汚れてしまった海はどうやったら元に戻るのですか？誰がなおしてくれるのでしょうか？以前に水俣の人間や猫仲間が、それはそれはひどい目に合ったんだよ、と物知りの爺ちゃんから聞いたことがあるのです。だから僕は心配で仕方がないのです。

それにしても暑いですね。昔はこんなに暑かったかな？でも僕らは平気

です。涼しくてお気に入りの場所をみつけることができるからです。そこで一日の大半をのんびりと寝て過ごしています。時々、意地悪な犬に追いかけられたり、血相を変えた鼠に噛まれることもあるけれど、まあ、たいしたことではありません。でも、人間同士が殺しあうような争い事だけは厄介です。昔から人間が一旦争い事を始めてしまうと、泥沼になって手がつけられなくなってしまふし、意地悪で執念深く、一向に終わりやしません。しまいには、なんでこんな醜い事を始めたのかさえわからなくなって、あまりの愚かしさに開いた口も塞がりません。

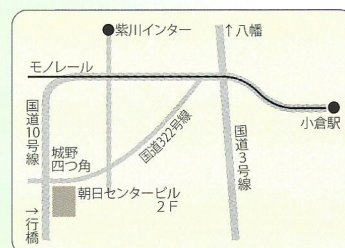
僕らはただのんびりと平穩に暮らしたいのです。だから人間がひどい争い事で悩んでいるなら、すぐに声をかけてください。なんでも話し合いで解決できる僕らが手を貸してあげますよ。お礼は旨い魚で結構です！

■みなさんといっしょに環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

東風

No.29

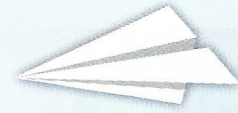
- 発行日 2014年8月1日
- 発行所 小倉東総合法律事務所
- 編集者 荒牧 啓一
- 連絡先 〒802-0062 北九州市小倉北区
片野新町2丁目12番21号
朝日センタービル2階
TEL093(932)5575
FAX093(932)5600
e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



近未来からの手紙

どうして僕は戦場に？

誰でも進んで人殺しをしたいと思う人などいないだろう。
 自分の命に危険が及んでいる場合ですら、躊躇する人が多いの
 ではないだろうか。
 だから、誰も戦場に行きたくないはずだ。僕も行きたくない。
 それなのに、僕は今、**戦場**に行かされ、人を殺し、殺される場面に
 立たされようとしている。



集団的自衛権は誰が決めた？

選挙で一度でも争点になったか？国会で十分に議論され、議決されたか？

憲法9条の改正手続はとられたか？

そんな事実はない。密室の中で、政府と与党関係者が話して、閣議決定されただけだ。
 それだけで、僕は今、戦場に送られようとしている。人殺しを強いられようとしている。
 僕は行かないといけないのだろうか？

集団的自衛権の仕組み



僕は、政府から「密接な関係にある他国が武力攻撃を受け、国民の生命、自由、幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある」と言われて、戦場に送られようとしている。

しかし、僕にはとてもそんな危険があるとは思えない。

だけど、誰にも確かめようがない。政府が必要な情報を特定秘密に指定してしまって誰も近づけないからだ。

僕は行かないといけないのだろうか？

そもそも**集団的自衛権**の行使を認めようとする動きはどこから出てきたんだ？

これがアメリカの意思だということは誰も知っている。僕たちが求めたものではない。

アメリカからご託宣を受けた安部首相は、僕たちの意思は全く無視して、

いそいそと、僕たちの戦争しない自由を差し出した。

アメリカの前には、僕たちは戦争する・しないの自由すらないということか？

僕たちは奴隷と一緒にか？

戦場に行かされる今になって、僕は思う。

民主主義。人権。平和。これらは全て幻想だったのだろうか？

憲法はアメリカが僕たちを騙すための道具だったのだろうか？

そう言えば、僕たちは、これまでも、自衛隊、たくさんの基地、原発、プラザ合意、



日米構造協議、集团的自衛権、全てアメリカの言うとおりに、たくさん大切なものを差し出してきた。

僕たちは民主主義や平和をつかんでいたように思わされていただけで、

その実、アメリカと日本の支配層に奴隷のように扱われていただけなのだろうか？

もしそうなら僕たちは大変な侮辱を受けていたことになる。

僕たちはこんな侮辱を受けたまま、**戦場**に行かされるのか？

僕たちはこのまま死んだら犬死だ。

今の国民の皆さんに心からお願いだ。

僕たちは戦争に行きたくない。

人としての誇りを取り戻したい。

今ならまだ闘える。

平和憲法を真に勝ち取ってほしい。

日本国憲法

第二章 戦争の放棄 第九条

① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

ひょうがむよう 兵戈無用

鈴木 君代



Profile

京都生まれ。真宗大谷派(東本願寺)僧侶。10才から始めたギターを抱えて、シンガーソングライターとしても活躍。いのちや愛をテーマに作詞作曲をおこない、全国各地の講演会やライブで披露する。CDに「いのちの花を咲かせよう」「いのちのうた」「あなたに遇いたい」など。当日は、「平和の琉歌」「兵戈無用」「一本の鉛筆」を演奏予定。



お釈迦さまが説かれた『大無量寿経』というお経の言葉に「兵戈無用」という言葉があります。兵隊も武器も要らないという意味です。お経に謳わなければならないほど、2500年以上も前から、世界中で戦争が絶えず、兵隊も武器も要らない世界が求められ、願われていたのです。

お釈迦さまは、「すべてのものは暴力におびえる／すべてのものは命が愛しい／己が身にひきあてて殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」(法句経)と教えてくださっています。

私には戦争でいのち奪われた親族はいませんが、現在の私が生きているということは、戦争で亡くなられた多くの人たちとのつながりの中に在るということだと思います。なぜなら、私の存在は生きてある人たちとの関わりだけでなく、死んでしまった人たちとの関係の中でも在るからです。無量無数の生と死の果てに、今ここに私が在るからこそ、戦争でいのち奪われていった人たちの声なき声を聴きとっていくことの大切さを思います。

それは、戦争でいのち奪われていった人たちも含めた無量無数のすべての仏さまが、私たちに「本当の願いに目覚めよ」と願っておられるということではないかと思います。人が人を殺し、人が人に殺されていく戦争のない国に、すべての人を生まれさせたい、そして人間であることを失っ

ている状態から人間であることを取り戻させたいという願いです。それは、具体的には、もう二度と戦争で誰一人としていのち終えていくことのない世界を願い行動することだと思います。戦争のない世界を願いながら「兵戈無用」を歌っています。

兵戈無用 あらゆる者は、暴力に怯える／兵戈無用
生きるものは いのちは愛しい
おのが身に 引き比べて 殺してはならない／己が身に引き比べて／殺さしめてはならない

誰も世界中の誰も殺してはならない／誰も世界中の誰も殺さしめてはならない
人を殺すのにどんな正義もない／どんな戦争も正しいものは一つもない
自分に引きあてて 世のいのりにこころ入れて

兵戈無用 武器も兵隊もいらない／兵戈無用 世の中安穏なれ

兵戈無用 仏法ひろまれ／兵戈無用／武器も兵隊も原祭もいらない